

地域包括ケア「見える化」システム研修会 (入門編)

- Step 4 -

公立大学法人埼玉県立大学
吉田 俊之

自己紹介

●所属

埼玉県立大学 地域連携センター 教授

●委員等

厚生労働省 社会保障審議会福祉部会 委員

●研究テーマ

地域包括ケア、ヘルスケアポリシー、ヘルスケアマネジメント、社会保障

●主な研究調査、支援

(これまで)

- 介護分野の生産性向上ガイドライン等の策定、事業者への業務改善の伴走支援
- 介護分野の介護ロボット・ICT導入、導入と使いこなしの伴走支援
- 介護保険事業計画支援、介護報酬改定影響調査
- その他、文書量削減、保育部門の業務改善活動 ほか

(最近のテーマ)

- 計画策定に関する自治体支援
- リエイブルメント
- 社会福祉連携推進法人／協働・連携
- 在宅医療介護連携
- 障害者向け支援機器の開発に関する人材育成プログラム
- Co-production

研修のねらい

- ① 見える化システムの基本的な操作の習得
- ② 見える化システムを使ったグラフの描画の習得
- ③ データの基本的な読み解きの習得
- ④ データを使って事業や取り組みを育てる考え方の習得

到達目標 (初級編)

- 見える化システムを使う抵抗感がなくなる。
- 基本的な操作をスムーズに行えるようになる。
- 1つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- 2つの指標を組み合わせたグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- データ結果と事業の状況を結びつけて考えることができるようになる。

研修の構成 (初級編)

ステップ	日にち	テーマ
1	7/24	操作方法
2	8/7	簡単なグラフをつくる ー 1つの指標の読み解きー
3	8/21	少しステップアップしたグラフをつくる ー 2つの指標の組み合わせー
4	9/4 (本日)	「見える化」システムの日々の事業への活用

あなたにとってより良い研修となるために

- 目的は基礎的な操作スキルの習得です。そのため、講義的な時間よりも、皆さんと私が同時に見える化システムを操作する時間に研修時間を多く割り当てます。
- できるかぎり、画面をオンにして参加ください。
- 機能や操作を直感的に理解できるように、個別の自治体を取り上げています。特別な意味はありません。
- 発言や質問などのグループ全体への貢献を歓迎します。

スケジュール (4日目)

セッション	日にち	テーマ
1	13:30-13:32 (02分)	事務連絡／あいさつ
2	13:32-13:35 (03分)	アイスブレイク：前回の振り返り
3	13:35-13:50 (15分)	ケースの説明とチャレンジの準備
4	13:50-14:10 (20分)	チャレンジ（20分）
5	14:10-14:30 (20分)	シェア（20分）
6	14:30-14:55 (25分)	振り返り／質問・感想コーナー
7	14:55-15:00 (5分)	事務連絡

前回の振り返り

- 到達目標

- 見える化システムを使ったグラフの描画の習得する。
- 2つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。

- 内容

- 学習した図の読み解き
 - ✓ 2つの指標：「つながり」を見る
 - ✓ 2つの指標：緩やかな因果関係を想定する

ケースの概要

- 主人公・佐藤丸子は久々に高齢福祉部に配属
- 部長から地域の状況を数値で示してとの依頼
- 研修で実践したことを踏まえ「見える化システム」を活用
 - 1つの指標を見る／位置を評価する
- 高齢福祉部のアドバイザー教授とのオンライン対話
 - 2つの指標を組み合わせると「つながり」をみる

ファイナル・チャレンジ

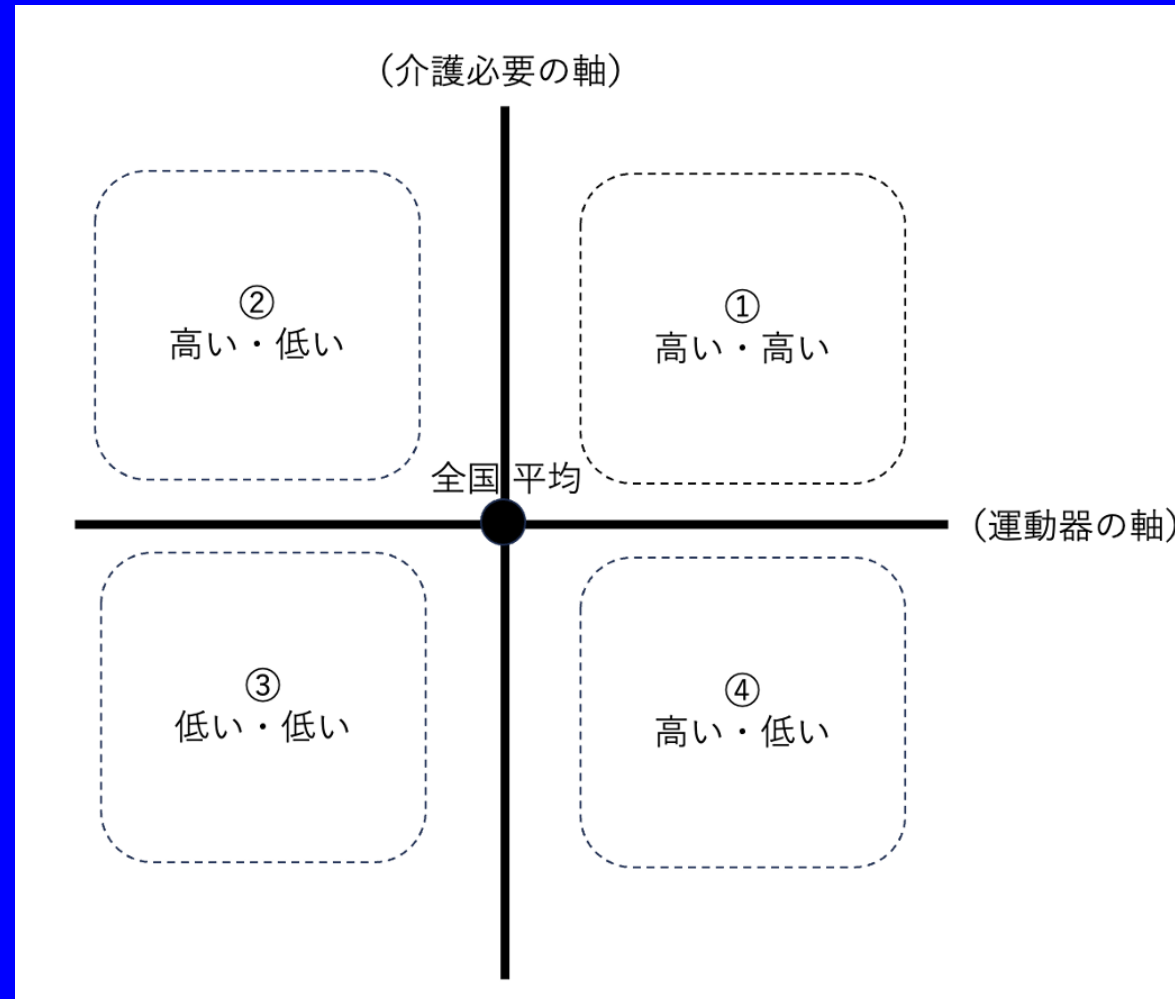
1. ケースの主人公・佐藤丸子の展開を参考にし、あなたの市町村について、「介護が必要な高齢者の割合」と「運動器機能リスク高齢者割合」を組み合わせたグラフを描いてください。
2. 次に、あなたの市町村の位置は、全国平均と比べ、「介護が必要な高齢者の割合」と「運動器機能リスク高齢者割合」が、①高い・高い、②高い・低い、③低い・低い、④低い・高い、のいずれに該当するか評価してください（下図を参考）。

ファイナル・チャレンジ

- 最後に、あなたの自治体の位置から「③」の領域に移動するには、あなたの自治体が自裁に実施している「運動器機能の向上」につながる事業を、どのように事業改善すると良いと思うか、あなたなりにアイデアを出してみましょう。事業改善の方向の選択肢は、「強化」もしくは「見直し」のいずれかです。今回はシミュレーションですので「現状維持」は選択肢から排除してください。

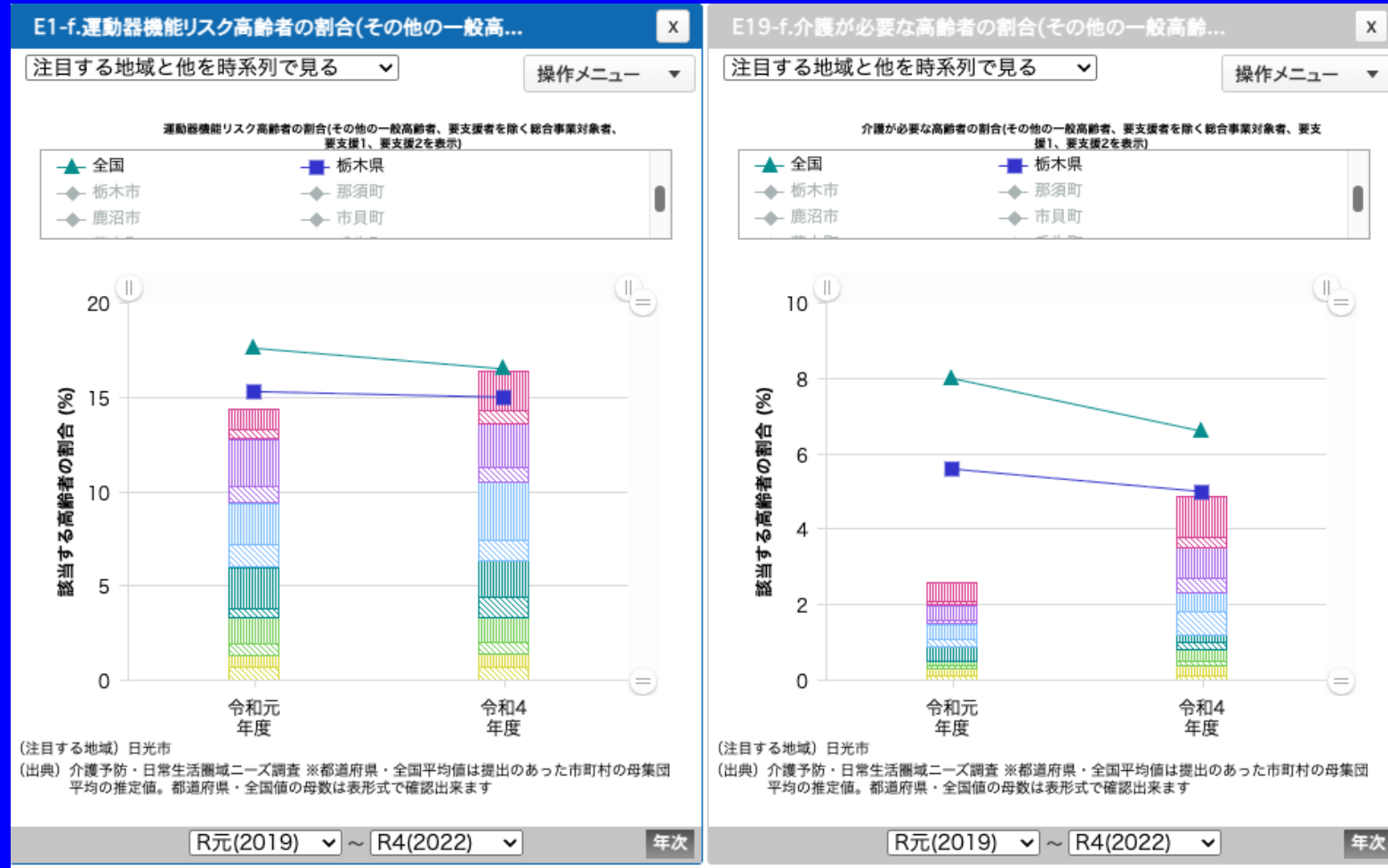
もし、あなたの自治体が③に位置している場合、さらに介護が必要な高齢者割合を低下させるため、新規の取り組みを提案してください。

ファイナル・チャレンジ



ファイナル・チャレンジ

(日光市さんの例)



最終振り返り・感想コーナー

◆本日の到達目標

- データ結果と事業の状況を結びつけて考えることができるようになる。

次のようなご相談は、ご遠慮なく連絡ください。

- ◆ 本研修後（4回分）のフォローアップ
- ◆ 介護保険事業（支援）計画などに関する委員会の委員、アドバイザー等
- ◆ 見える化システムの活用に関する関係者向けの研修
- ◆ ニーズ調査等の調達仕様書の設計に関すること
- ◆ その他、自己紹介のページ内容を含め、幅広く、地域包括ケアに関すること

埼玉県立大学 吉田俊之
yoshida-toshiyuki@spu.ac.jp